

# 信越化学工業株式会社

## 2023年3月期第1四半期 決算説明電話会議要旨

日 時	2022年7月27日(水) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	<a href="#">2023年3月期第1四半期 決算短信</a>

\* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

### 【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 2023年3月期第1四半期  
連結売上高：6,567億円(前年比 51%増)  
営業利益：2,496億円(前年比 94%増)  
経常利益：2,626億円(前年比 2倍)  
純利益：1,841億円(前年比 92%増)
- 全てのセグメントが大幅な増収増益を達成。

#### [セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：  
塩ビ樹脂は、北米市場では、4月にポンド当たり3セントの値上げが通った後、2か月その水準を保っている。7月は一定の調整があるだろう。北米市場では、市場で進む在庫調整に対して、需要家はこれまでに得たマージンを払い出すようなことはせず、賢明な対応をしている。レジンにおいても、6月度の業界統計から、在庫調整期間は需要の価格弾力性の低いことが認識されていると見る。アジア市況は4月ごろから下がりだした。中国情勢がカギを握るが、じき底打ちするだろう。  
ソーダは北米、アジアともに需要は概ね安定。
- 【電子材料】：  
半導体の前工程材料の投入に今のところ目立った変化はない。約束どおり、見込みどおりに推移している。  
希土類磁石に対する需要は引き続き強い。車の電子化・電動化、HPC、GXは続く。景気循環的な調整と基礎需要を分別しながら、能力増強を行う。

- 【機能材料】：  
汎用品の需要が一服する一方で、当社の強みである機能品・特殊品の需要は堅調であり、その比率は上がっている。供給体制を強化する。
- 【加工・商事・技術サービス】：  
工程内用ウエハーケースも含めて、ケース需要に今のところ変化なし。

[今期業績見込みと株主還元について]

- 予想は依然容易ではないが、今期通年の決算を、売上高 25,500 億円、経常利益 8,400 億円と予想。この予想に基づくと、今期の 1 株当たり純利益は 1,433 円、ROIC は 29%、ROE は 16.7%。
- 年間配当金は 50 円増配の 450 円を予定。加えて、1,000 億円規模の自己株買いの実施を決定。これらのことは、業績の結果であり、堅固な財務内容に裏打ちされたものであり、また株主の皆さまに報いる当社の姿勢の表れ。

### 【補足説明（広報部長 福井真二）】

- 2023 年 3 月期の設備投資額は約 2,700 億円、減価償却費は約 2,060 億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 54 億円、ユーロは年間 3 億円。

### 【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	塩ビの市況について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジア市況は、底打ちが近いと見ています。この理由としては、ひとつに直近のものの動き。もうひとつは、今の値段の水準とコスト。真っ当なサプライヤーであれば、生産調整に入る水準であるということです。この 2 点から底打ちが近いとみています。</li> <li>・ 北米の市場は、アジア地域に比べるとまだまだ底堅い。7 月は価格の調整（値下がり）があると見ていますが、アジアで見られたような急速な値下がりがあるとは見ていません。当社の顧客もかなり慎重に取り組んでいるので、加工業界も含めた塩ビ業界全体が動揺するようなことはないと考えています。 （アジアと北米の市況差について）</li> <li>・ 6 月の業界統計を見ると、（北米では）収益性を考えて操業しているのが見て取れます。インフレ抑制のために金融の引き締め政策がなされていて、アメリカの需要の冷え込みは避けられないと思います。このような修正局面で、北米の塩ビ市場を見る限り、慎重な対応がなされています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米の7月の価格調整の水準について、3¢/lbよりは、大きめになると思います。 (Bloomberg社が出している塩ビ市況について)</li> <li>購読していないのでわかりませんが、北米とは関係ない、おそらくアメリカから出る輸出価格と思われます。どのような調査の結果で出てきているデータかわかりませんので、コメントは差し控えます。</li> </ul>
Q	北米塩ビの見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩ビ市況は、過去に色々な動きがあり、当社はそれなりに経験を積んでいます。この2年、特に昨年後半から今年にかけて、塩ビ市況はさらに上がり、歴史的な水準を更新してきました。今、インフレ抑制のために金融の引き締めがなされています。最近の報道を見ても経済の下ぶれ懸念はありますが、それが深くなるか、浅く済むのか、2つのシナリオを見ながら仕事に取り組んでいます。 (2年前の塩ビの市況水準に戻るのかについて)</li> <li>当社のお客さまが極めて冷静な対応をされていて、そこにこれまでとの違いを見ています。それに呼応するかのように、レジンのサプライヤー側も冷静に対処しています。塩ビは住宅建設に深く関わりますが、住宅不足は歴然として残っています。家の販売が減る中でも住宅の価格が上がる。また、持ち家を一旦諦めた人たちが賃貸に向かい、家賃が上がるということが起きています。根底に家が足りないということがあります。住宅着工は調整局面になっていますが、住宅そのものの建設は進むと見ています。住宅建設業も同様の考えで臨んでいると見て取れます。 (当社のお客さまの冷静な対応とは)</li> <li>お客さまも在庫の調整局面にありますが、過去2年近くお客さまは、相当利幅の改善を達成してきました。どういう生産・販売が最も良いかということ熟慮して取り組んでいるということです。それぞれの業界によって幾つか違いがありますが、お客さまは市場の変化に冷静に対応しています。</li> </ul>
Q	リスクシナリオが顕在化した場合の戦略について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで塩ビの能力増強を図ってきたのが専ら当社であるということがあります。また、エチレンの投資もし、インテグレーションも進みました。原料調達でも色々な工夫をしています。市況の局面で同業他社と当社の差を見ていただければ良いと思います。</li> </ul>

Q	アジアのか性ソーダの状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>か性ソーダは、様々な分野・用途で使われていますので、全体として安定していて堅調さを保っています。市場の状況から考えると、塩ビとか性ソーダは併せて底打ちと見ています。</li> </ul>
Q	欧州・北米の天然ガス価格の上昇による（今期）業績への影響について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州は、エネルギー、天然ガス、その他エネルギーの価格が高止まりしていて、さらに上がる可能性もあります。その中で、ヨーロッパの事業については、できるだけ価格転嫁で応じることになります。一方で、ヨーロッパの経済が、相当下ぶれするとも言われており、そうなると需要全体が調整され、エネルギーの値段も下がることになります。とにかくエネルギー関連のコストアップについては価格転嫁をしていく、その努力を怠らないということだと思います。</li> <li>アメリカについては相対的に、天然ガスの値段が上がり、エチレンの主たる原料であるエタンの値段も、以前に比べれば高くなっていますが、石油由来の塩ビのコストに比べればずっと恵まれています。そういうコスト差を、うまく利用していかなければいけないと考えています。</li> </ul>

## 〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの4-6月から7-9月にかけての動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>300mm ウエハー、200mm ウエハー受注に関しては7-9月期も調整は感じられません。150mm以下のウエハーは減速傾向です。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期的にはEVやグリーン投資向けは堅調、民生品、PC、サーバーについてはデバイスの在庫調整や設備投資の調整はあると見ています。一方ウエハーは、この2年間サプライチェーンの混乱等で在庫を積み増そうという動きがある中で、300mmや200mmウエハーは、ウエハーメーカーの能力増が限定的でウエハー在庫は積み増しできていません。したがって、デバイスとウエハーでは動きが違っていると見ており、現時点において、特に300mmウエハーの大きな需要減は見込んでいません。</li> <li>中期的には300mmウエハーはデバイス需要の増加に加え、メモリー、ロジック両デバイスにおいて、一部でウエハーの貼り合わせによる2枚使いが始</li> </ul>

	<p>まる見通しです。当社は長期契約に基づき増設を逐次行っていきます。200mmウエハーについては、中期的に需要は堅調と見ていますが、現状の価格レベルが再投資できる水準ではなく、能力増強は予定していません。</p>
Q	半導体ウエハーの設備投資の進捗状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足元の投資はブラウンフィールド的な投資が主体ですが、装置の納期は長くなっています。現時点、計画に対して大きく遅れが目立っていることはありません。</li> </ul>
Q	電子材料セグメントの増益貢献について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利益額で、最大なのは半導体ウエハー、2番手はフォトレジストその次は希土類磁石となっていますが、そのほか各製品とも順調に増益となっています。</li> </ul>

### 〈機能材料〉

Q	利益率が改善した背景と継続性について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特殊品の比率が上がってきていることが表れています。これはシリコンだけではなく、セルロースやその他の製品についても同様です。</li> <li>・ 製品構成がより利益率の高い方向に行っていることの結果ですので、これを維持、そしてさらに向上させていくという作業に取り組んでいます。</li> </ul>

### 〈全 社〉

Q	通期予想について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1四半期の実績をもって、通期の予想を四分割してみるとこのような見方は推奨しません。8,400億円という経常利益の予想は、過去最高を更新するだけでなく、いわゆるコンセンサスも上回っている数字だと理解しています。したがって、通期予想に対し4-6月の実績が、進捗率にして3割を超えているという見方をしていただければと思います。</li> </ul>
Q	自己株買いと資本政策について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己株買いについては、機動的に取り組むと以前よりお話ししています。手持ち資金の基準について私なりの考え方はあります。取締役会で議論を詰めて今回の実施を発表する運びとなりました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配当については、継続的に、長期にかつ安定的にという方針のもと、配当性向の目安もお話ししました。増配の基調も必要と考えており、これらを勘案して今回の配当予想や自己株の買い取りの実施に至りました。</li> <li>・ 事業で得た資金は、事業に再投資する。これも着実に行っていきます。</li> <li>・ こういったことを実施した上でも現金が貯まっていく一方ではないかというのがご指摘だと思いますが、事業へは適時に投資をしていきますし、規模も大中小と色々あるので、そういうことを踏まえて取り組んでいきます。資本政策については一貫していますが、柔軟にも考えているつもりですので、長い目で見ていただければと思います。</li> </ul>
Q	<p>来期のさらなる増益に向けた考えと抱負について</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北米でシンテックの能力増強を進めていますし、ウエハーについても逐一お客さまとの約束に基づいて能力増強をしています。その他の電子材料についても、短信にも触れたように能力増強をしています。とにかく全てが忙しい状況ですので、能力増強を着実にこなして、まずはそういう能力増に支えられた増益を追求していきます。</li> <li>・ 市況の変動に対しては、いかにスプレッド、マージンを保つかということになりますが、当社の経験、ノウハウといったものを縦横無尽に使って実現していく考えです。</li> </ul>